

## 令和元年度 【 学園研究費助成金&lt; B &gt; 】 研究成果報告書

学部名 現代マネジメント学部

フリガナ ミズノ ヒデオ  
氏名 水野 英雄

研究期間 令和元年度

研究課題名 フライ&クルーズとインターポーティングによる外航クルーズ客船の寄港促進と寄港地の拡散による観光公害の防止に関する研究

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	水野 英雄	現代マネジメント学部	准教授
研究分担者			
研究分担者			

## 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

外国船社のクルーズ客船によるインターポーティングが行われるようになったことで、これまで寄港が少なかった港への寄港が増加している。プレミアムやラグジュアリークラスにおいてはフライ&クルーズによる寄港も増えている。日本船社においてもフライ&クルーズやレイル&クルーズが行われるようになってきている。しかしながら、現状では日本人向けの国内市場は小さく、クルーズ客船の寄港回数とインバウンドのさらなる増加のためにはインターポーティングやフライ&クルーズとレイル&クルーズの促進は不可欠である。クルーズ客船の寄港は多数の乗客による消費支出で大きな経済波及効果が期待される一方で、交通や施設の混雑による観光公害が懸念されている。

## 2. 研究の推進方策 (300字程度で記述)

本研究ではクルーズ産業の発展につながるインターポーティングやフライ&クルーズとレイル&クルーズについて、フライ&クルーズとインターポーティングによって発展した地中海クルーズの寄港地であるバルセロナ (スペイン)、マルセイユ (フランス)、ジェノバ、チビタベッキア、パレルモ (イタリア)、バレッタ (マルタ)の各港において現地調査を行った。また、日本発着の外国船社のクルーズ客船の母港である横浜港や寄港地である清水港、日本から最寄りの海外の寄港地である釜山港についても現地調査を行った。現地調査による各港の状況を踏まえて、効果的な集客と寄港地の拡散を図る方策を検討した。その結果を用いて、クルーズ客船の寄港による観光公害の防止し、かつ経済波及効果を大きくする受け入れ促進策について考察した。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

フライ&クルーズとインターポーティングによって発展した地中海クルーズの各寄港地において寄港のための地理的要因(歴史的要因)、施設的要因(充実した受け入れ設備)、観光地的要因(魅力ある観光資源)、交通渋滞や観光施設・商業施設の混雑、廃棄物の処理といった観光公害への対応、フライ&クルーズとインターポーティングの状況について現地調査を行った。地中海は教会や城塞といった歴史的・文化的な観光資源や美しい景観が豊富で、クルーズ客船により移動しやすい距離に寄港地となる都市がある。地中海クルーズが人気となり発展したことで各港とも岸壁や旅客ターミナル等の施設を整備しており円滑なCIQが可能であり、クルーズ客船の巨大化や寄港数の増加に合わせてさらなる整備が進められている。寄港地は大都市であり、交通や観光・商業施設が充実していることで多数の乗客を受け入れるだけの十分な余地があり、観光公害を防いでいる。

日本では九州・沖縄への寄港の集中が緩和し全国に寄港地が広がっており、各港が地方創生として寄港誘致に取り組んでいる。しかしながら、大量の乗客への対応が十分でないために大きな経済波及効果を得られていない寄港地もある。インターポーティングによって乗客を一部ずつ入れ替えていくことでCIQの負担を減らすことや乗客の国籍や年齢に合わせた観光を提案すること、寄港地の連携による誘致活動でより大きな経済波及効果の実現が可能となる。

研究の成果を活かして水野英雄他4名(2019)「四日市港への外航クルーズ客船の寄港による経済波及効果の推計」『港湾研究』第40号、水野英雄(2020刊行予定)「名古屋港へのクルーズ客船の寄港の現状と近隣港との連携による寄港促進の可能性」『港湾研究』第41号を公表し、一般向けに新聞に寄稿した。また、一般向けと行政・観光関係者向けに講演を行った。愛知県の「常滑港におけるクルーズ船誘致に係る勉強会」の座長を務め、常滑港へのクルーズ客船の寄港誘致に取り組んだ。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①クルーズ客船	②フライ&クルーズ	③インターポーティング	④インバウンド
⑤観光公害	⑥クルーズ公害	⑦経済波及効果	⑧地方創生

**5. 研究成果及び今後の展望** (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

水野英雄他4名(2019)「四日市港への外航クルーズ客船の寄港による経済波及効果の推計」『港湾研究』第40号、日本港湾経済学会中部部会、p.23～p.47  
水野英雄(2019)「インバウンド誘客のための魅力あるNagoyaの創造」『名古屋港』第37巻6号(通巻222号)、名古屋港利用促進協議会、p.12～p.18  
水野英雄(2020刊行予定)「名古屋港へのクルーズ客船の寄港の現状と近隣港との連携による寄港促進の可能性」『港湾研究』第41号、日本港湾経済学会中部部会  
水野英雄「米国の最新クルーズ客船ー日本も市場拡大の可能性ー」『中部経済新聞』「オープンカレッジ」中部経済新聞社、令和元年5月17日、p.10  
水野英雄「富裕層向け観光ビジネスの展開ー体験型観光による「質」の向上ー」『中部経済新聞』「オープンカレッジ」中部経済新聞社、令和元年7月30日、p.10  
水野英雄「愛知をアジアのカリブ海にー各港が連携しクルーズ船誘致をー」『中部経済新聞』「オープンカレッジ」中部経済新聞社、令和2年1月6日、p.6  
2020年1月26日の『2020クルーズセミナーin常滑』での一般向けの講演「『安い、楽しい、安全な』クルーズ船の旅」  
2020年2月26日の『2020クルーズセミナーinりんくう』での行政・観光関係者向けの講演「クルーズ船寄港における地域のメリット」